

平成 26 年度 活動内容報告書
フリーダム創生（多機能事業）

平成 26 年度 フリーダム創生就労移行支援事業 活動内容報告書

就労移行支援事業 定員 10 名

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの利用

活動日数 246 日 利用日数 942 日 一日平均利用者数 3.8 人

就労者 2 名 (就労継続支援 A 型) 途中退所 1 名

職員数 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

管理者 1 名 (ただし 3 事業兼務)

サービス管理責任者 1 名 (ただし 3 事業兼務)

就労支援員 1 名

職業指導員 1 名

生活支援員 1 名

計 5 名

利用者数 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

身体障害者 1 名 (脳性まひ 1 名)

知的障害 0 名

精神障害 0 名

計 1 名 (男性 1 名 女性 0 名)

うち身体と知的の重複障害 1 名

【就労移行の支援内容】

- 1、パソコン基礎の学び (Word・Excel・インターネット)
- 2、ビジネスマナーの習得 (挨拶・面接・考え方等)
- 3、一般常識を知ること
- 4、コミュニケーション能力を身につけていく
- 5、就労訓練 (実習)
- 6、外出訓練
- 7、機関への訪問 (ハローワーク・役所等)

【課題と必要性】

平成 26 年度の間で就労移行できたのは 2 名です。2 名とも重度の身体障害という事もあり、本人に必要な介護（トイレ介護）を受ける必要があったため、就労継続支援 A 型へ就職（移行）したことが現状です。

しかし、就労継続支援 A 型でも本人が必要としている介護を受けることが困難で、自分で何とか対応をしないといけないこともありました。

身辺介護が必要な障害者にとって就労することがいかに困難で、本人も家族も就労に対しての考え方を少し変えて、就労先から就職者側に歩み寄っていただくことはもちろんの事、就職者本人又は家族からも就労先へ歩み寄る必要があることを理解していく事も考えなくてはなりません。

就労先に求める事としては、少しでも就職者への介護を対応していただくこと。

就職者本人としては、自分の事は出来るだけ自分です。という事が求められます。

平成 26 年 4 月 1 日現在で登録利用人数は 1 名です。昨年度から見てもいまだに就労移行の利用者の増加が見られず、足踏みをしている状態です。今回、相談支援事業所から 1 名の利用者を受け入れ 5 月 28 日現在 2 名の利用となっています。就労継続支援 B 型から異動する者もなく、これからも強固に利用者確保に努めなければなりません。相談支援事業所や就労支援センター、支援学校等とのつながりを深めていきたいと思えます。

就労移行の実績として、これからは就労継続支援 A 型への就労は就労とは認められず、一般就労が求められます。一般就労にチャレンジできる技術を習得できる方の利用を見極めながら、極めて低い重度障害者（特に車いす利用者）への就労を支援していきたいと考えています。

就労移行を利用する障害者への求められることは、「就労したい思いの強さ」「理想と現実の違いを知っている」「トイレの自立」の 3 つに加え、「社会への歩みよる姿勢」が、必要な事だとおもいますので、先ず就労移行を利用するまえや面接のとき等にこの 4 つの事を確認していきたいと考えております。

平成 26 年度 フリーダム創生就労継続支援 B 型事業 活動内容報告書

就労継続支援事業 B 型 定員 30 名

活動日数 245 日 利用日数 557 1 日 一日平均利用者数 22.7 人

就労者 0 名 途中退所者 7 名（うち 3 名は事業所内異動）

（就労者については 3 月 31 日付退所者 1 名が A 型支援事業に就職）

職員数（平成 27 年 3 月 31 日現在）

管理者	1 名（ただし 3 事業兼務）
サービス管理責任者	1 名（ただし 3 事業兼務）
職業指導員	3 名
生活支援員	1 名
計	6 名

利用者数（平成 27 年 3 月 31 日現在）

身体障害者 13 名（脳性まひ 8 名 視覚障害 5 名）

知的障害 11 名

精神障害 2 名

計 26 名（男性 14 名 女性 12 名）

うち身体と知的の重複障害 8 名

うちグループホーム入居者 2 名

この度は、お忙しい中このような報告の場をいただき、皆様のご厚誼に感謝しております。

《販売についてのご報告》

授産事業の売り上げは総計で 17,085,402 万円を上げることができました。

本年度はバザーの販売にたいへん恵まれた年となりました。

毎年お世話になっている大同生命保険株式会社様、大阪ガス株式会社様、こころラボ様のバザーの他、地域の団体様や事業所様からもバザーの出店依頼をいただき、良い交流を築くことができました。また、平成 25 年度から始まった東淀川区役所様への定期販売や以前からの視覚特別支援学校様への定期販売も続けております。

販売契約をいただいている納品では、

（1）淀川キリスト教病院様へ 週 5 日パン・クッキー納品

売り上げ毎月平均約 23 万円

（2）株式会社大商様へ 月 2 回 100 円クッキーを 300 個納品

売り上げ 月 6 万円

三井化学産資株式会社様からは毎月1回ご注文をいただき納品を続けております。

その他にも以前からの注文、新規の注文をいただき、その時々に応じたシールを作り、お客様に喜んでいただいています。

カレンダー販売では、昨年に引き続きロータリークラブ大阪中央様の各関係会社様からご注文をいただき、515,000円の売り上げをいただき、個人様からのご注文も引き続いていただくことができました。

変わらぬご注文に大変ありがたく思っています。

商品開発では、年頭に企画した抹茶味はコスト面から販売にまでは至りませんでした。ごま味のクッキーを新商品として販売したり、納品用として扱っていたプレーン味のクッキーを街頭でも販売し、両方の味とも大変ご好評をいただいております。

また、淀川キリスト教病院でお見舞いに使えるよう藤かごに花と一緒に詰め合わせたクッキーの販売を始め、毎週1～2個コンスタントに売れています。

26年度の販売活動は概ね好調でありましたが、その背景には毎月、利用者さんの給料説明会時に合わせて行う研修と、1～2ヶ月に1度全体のスタッフで行います販売戦略会議が役に立っていると思われまます。

《年間行事の報告》

製造や販売以外にも事業所内外でたくさんの楽しい行事もありました。

- 4月18日 新入所者歓迎の外出で天王寺動物園散策
- 5月23日 大同生命様・企業ボランティアでアベノハルカス展望
- 8月13日 事業所にてスイカ割り大会
- 9月9日 女子大生ボランティアによりミニコンサート
- 9月26・27日 障害者自立キャンプをアミティ舞洲にて
- 10月21日 東淀ライオンズクラブ様協力でスポーツ大会
- 12月17日 事業所内でもちつき大会
- 12月20日 グローリークリスマスを東淀川区民ホールにて
- 3月20日 木下大サーカス観覧に奈良県まで外出

いつもがんばって作業をしている利用者さんたちの気分転換にもなって、周りの人との親交も深まり、ボランティアさんとの交流も良い経験となっているようです。

また、はじめてB型だけの外出プログラムとして、電車でサーカス観覧に奈良まで行き、皆で交流を深め、楽しい時間を過ごすことができました。

《地域交流の視点から》

近隣の瑞光中学校様、大桐中学校様がふれあい職業体験実習の場として生徒さんには、良い実習をしていただいております。また、地域の消防訓練として瑞光中学校にて、車いすを押して避難する訓練が行われ、福祉施設水仙福社会様と合同で参加いたしました。

運動会にも、瑞光中学様、大桐中学様の他、大阪市立光陽特別支援学校様、視覚特別支援学校様、西淀川特別支援学校様にご招待いただき、利用者さんと観覧に行き楽しませていただきました。

平成26年度もあわただしく過ぎましたが、この年度1年を終えることができましたのは、関係各位様の温かいご支援と、ご指導を賜ったおかげであると、たいへん感謝しています。

平成27年度も、変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

平成 26 年度 フリーダム創生生活介護事業 活動内容報告書

生活介護事業 定員 20 名

活動日数 245 日 利用日数 4946 日 一日平均利用者数 20.2 人

途中退所者 0 名

職員数 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

管理者 1 名 (ただし 3 事業兼務)

サービス管理責任者 1 名 (ただし 3 事業兼務)

生活支援員 15 名 男性 9 名 女性 6 名

計 17 名

利用者数 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

身体障害者 18 名 (脳性マヒ 18 名)

知的障害者 6 名

計 24 名 (身体と知的重複障害 7 名)

※ 2015 年 4 月 1 日落穂より 1 名異動

※ グループホーム在籍 8 名

【運営報告】

生活介護事業シオンの家においては、運営目標を実行すべく次項の努力を行っています。

1. 利用者様個々の尊厳を守り、安全・安心な日常生活が送れるよう利用者様個別に 6 ヶ月に 1 回本人及び必要に応じて家族様と面談し個別計画を立て、各個人に応じた支援が行われています。
2. 各利用者様、月 2 回程度カウンセリングを受け、癒しの時間を持っていただき、充実した作業所生活を送っていただいています。
3. 食事・トイレ介護・街頭販売・創作的活動をシオンの大切な柱として利用者様・スタッフ共々切磋琢磨しています。
4. 毎週火曜日スタッフミーティングを行い、現在の問題点・よかったことを報告し、情報の共有を行っています。
5. 健康管理に努め、毎日のラジオ体操 (妖怪体操)、バイタルチェック (血圧・体温・脈拍・様子観察) を欠かさず続け必要に応じて看護職員に報告・チェックし敏速な医師診察、服薬など行っています。
6. 月 2 回の理学療法士によるリハビリテーション、月 1 回の医師による診察を行い、健康管理につとめています。

【日常生活報告】

1. 毎朝、利用者様・スタッフともに朝のミーティングを行い、前日の売り上げ報告、本日の街頭販売メンバー・笑顔・挨拶をする、4つの約束「貴重品は必ず身に付ける」「交通ルールを守る」「トイレ汚したら言ってください」「言葉づかいに気をつけましょう」の確認をしています。
2. カレンダー素材の紙ちぎりは、紙すきカレンダーの大切な作業で量りをおき目に見えるかたちで800グラムを目標に作っています。
3. 街頭販売は、利用者様にとって、笑顔と活力の源となっており、利用者様の表を作り、平等に販売行けるように気をつけています。
別紙のように隊もたくさん出て、販売に努めシオンそのものの売上也素晴らしいものがあります。
4. 今年3月には、生活介護（シオンの家）・就労移行支援（落穂）合同で万博公園に外出訓練に行き、民族博物館と太陽の塔を見学して、初春のひとつときを楽しみました。
5. 家族様とのコミュニケーションの一端として作成したDVD「2014年シオンの歩み」皆様に配ったところとても喜んで頂きました。

【今後について】

1. 安全で効率のよい作業が出来るよう、ナザレさんとも強調して作業場所の提供・作業内容の助け合いをしていきます。
2. 生活介護の目玉商品である駄菓子についても、高級感のある大人向けの高めの値段設定ができる物を考えています。
3. 昨年度同様、いろんな形で作業所の様子を家族様に発信し、生活介護への理解と信頼を得られるよう切磋琢磨していきます。
4. 利用者様・スタッフ共にここで働く喜びを共用し、街頭販売を通じ多くの人達とふれあい、四季折々の事業所行事に参加し、一人ひとりが成長していけるようにがんばります。

【課題】

1. 毎年生活介護へ多数の入所希望者があり現在、利用登録人数は定員の20名を超える24名の登録がある状態です。入所希望される方の受け入れをするためにはスペースの確保や・定員の変更等を考える必要があります。
2. スタッフのスキルの向上も急務です。新入所の方が増え、利用者様の多様性（重複障害等）・尊厳・社会人としての対応に研修と意識面での鍛錬が日々必要です。
スタッフ同士共に学び、教えを乞う謙虚さと仕事に対する積極性を鍛錬していきます。
3. 利用者様の外出訓練等の結果、自立支援のため「日常生活の学習」（郵便局・銀行の利用・買物等）が必要でいろんな機会をとらえて、ロールプレイングを行いながら学習していただきます。
4. 時代の流れとともに、パソコン使用（練習）を希望される利用者様がおられます。
作業所での仕事の両立・指導者不足・パソコン台数確保ができず、実行できていません。生活介護として、どの程度関わっていくべきか今後の課題です。